

病害虫発生予報

第5号(8月予報)

令和2年7月29日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	8月予報	
			発生時期	発生量
水稻	穂いもち	早期栽培	平年並	多
		普通期栽培	平年並	
	紋枯病	栽培地域全域	平年並	やや少
	ニカメイガ	栽培地域全域	平年並	少
	セジロウンカ	栽培地域全域	平年並	やや多
	トビイロウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	ツマグロヨコバイ	栽培地域全域	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	栽培地域全域	平年並	多
大豆	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	-	平年並
かき	カキノヘタムシガ	栽培地域全域	やや遅	やや少
	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	平年並	やや多
		中濃地域	平年並	少
なし	ナシヒメシンクイ	中濃地域	平年並	やや少
もも	ナシヒメシンクイ	飛騨地域	平年並	やや多
果樹共通	カメムシ類	栽培地域全域	-	多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	平年並	多
		中濃地域	平年並	やや少
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	-	多
野菜一般	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	-	やや多
	タバコガ類	栽培地域全域	-	やや少
	アザミウマ類	栽培地域全域	-	やや少
施設野菜	コナジラミ類	岐阜・西濃地域	-	多

※発生時期の-は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産消費安全技術センター）
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稻

穂いもち	対象地域	発生時期 <初発生>	発生量
	早期栽培	平年並（8月第1～3半旬頃）	
	普通期栽培	平年並（9月第1半旬頃）	

(1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少なくなる要因を（-）で表記）

ア 出穂期は、平年並と予想される（±）。

イ 葉いもちの発生ほ場率は、高かった（+）。

ウ 葉いもちの上位葉における発病は、岐阜・西濃地域で平年並（±）、中濃地域でやや多かった（+）。

エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 散布剤による防除は、穂ばらみ期~穂揃い期に実施する。葉いもちが発生しているほ場や、本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では特に注意する。
- イ MBI-D(カルプロパミド、ジクロシメット、フェノキサニル等)剤に対する耐性菌が当県でも確認されているため、別系統の薬剤を使用する。また、QoI 剤に対する耐性菌が確認されているため、薬剤の選択に注意する。
- ウ 過剰な追肥は、発病を助長するので行わない。
※ 病害虫発生予察注意報第4号「水稻：いもち病」(令和2年7月22日)、病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

紋枯病	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(8月第1~3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 初発生の時期は、東濃地域で平年並(±)、その他地域はまだ認めていない(-)。
- イ 水稻の生育は平年並であった(±)。
- ウ 発病ほ場率は、少なかった(-)。
- エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では、発生状況に注意する。
※ 病害虫図鑑「水稻 紋枯病について」もあわせて参考にしてください。

ニカメイガ	対象地域	発生時期 <第1世代成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(8月第3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 越冬世代成虫の予察灯への誘殺最盛期は、まだ認めていない(-)。
- イ 第1世代幼虫による被害ほ場は、少なかった(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 前年に被害が発生した地域では注意する。

セジロウンカ	対象地域	発生時期 <成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(8月第4~5半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、まだ認めていない(-)。
- イ 予察灯での誘殺数は、少なかった(-)。
- ウ ほ場での発生量は、岐阜・西濃地域でやや多く(+)、中濃地域で多かった(+)
- エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準(8月上旬に幼虫が5頭/株以上)を超える場合は防除を行う。
※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

トビイロウンカ	対象地域	発生時期 <幼虫・成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯での誘殺は、東濃地域で認められたが(+)、他地域では認めていない(-)。
- イ 7月下旬までの調査では、ほ場での発生は東濃地域で多かった(+)

ウ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準(早植栽培では8月上旬、普通植栽培では8月下旬に平均2~3頭/株)を超える場合は直ちに防除を行う。

イ 発生状況等について、今後の情報に注意する。

ツマグロヨコバイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(8月第2~3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

ア 予察灯における第2世代成虫の誘殺最盛期は、まだ認めていない。

イ 予察灯における誘殺数は、少なかつた(-)。

ウ 7月下旬のほ場での発生量は、岐阜・西濃、東濃及び飛騨地域でやや少~少なく(-)、中濃地域の一部のほ場で多かつた(+)

エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 地域による発生量の差が大きいため、発生状況に注意する。

※ 病害虫図鑑「水稲 ツマグロヨコバイについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並	多

(1) 予報の根拠

ア 出穂期は、平年並と予想される(±)。

イ 予察灯の誘殺数は、アカヒゲホソミドリカスミカメが岐阜・西濃地域でやや多く(+)、アカスジカスミカメが中濃、東濃及び飛騨地域で多かつた(+)

ウ 本田での発生量は、カスミカメ類は少なかつた(-)、ほ場によってはホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ及びイネカメムシ等の大型カメムシの侵入が確認された(+)

エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 出穂10日前までに畦畔等の雑草地における除草を徹底し、特にイネ科雑草は、出穂させないように管理する。

イ 散布剤による防除は、穂揃期およびその7~10日後の2回を基本とする。

ウ 粒剤による防除では出穂期の7~10日後が基本となるが、カスミカメ類の防除に重点を置く場合には、出穂~穂揃期に実施する。

※ 病害虫発生予察注意報第3号「水稲：斑点米カメムシ類」(令和2年7月22日)、病害虫図鑑「水稲 斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 大豆

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける誘殺数は、平年並であつた(±)。

イ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

イ フェロモントラップを設置してモニタリングしているほ場では、今後の誘殺数に十分注意する。

※ 病害虫図鑑「大豆 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

II 果樹等作物

1 かき

カキノヘタムシガ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや遅(8月第1半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 第1世代成虫の発生最盛期はやや遅かった。
- イ 第1世代成虫最盛期における発生量は少なかった(一)。
- ウ 第1世代幼虫による被害果率は少なかった(一)。
- エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(一)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 例年発生が多いほ場では、長期残効が期待できる薬剤を選択するか、1回目の防除7~10日後に追加防除を実施する。

※病害虫図鑑「かき カキノヘタムシガ」も参考にしてください。

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第3世代幼虫最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	平年並(8月第3~5半旬頃)	やや多
	中濃地域		少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における第1世代成虫の誘殺最盛期は、認められなかった。
- イ 予察灯における第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキでやや多く(+)、中濃地域のチャノコカクモンハマキ及び岐阜・西濃、中濃地域のチャハマキは少なかった(一)。
- ウ フェロモントラップにおける第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで多かった(+)
- エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(一)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア ヘタ部やつづり合わせた葉内などに生息するため、薬剤防除はていねいに行う。

※病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	中濃地域	平年並(8月第3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 中濃地域のフェロモントラップでの第2世代成虫誘殺最盛期は、認めていない。
- イ 中濃地域のフェロモントラップでの誘殺数は、やや少なかった(一)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(一)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。

※病害虫図鑑「なし ナシヒメシンクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	東濃、飛騨地域	平年並(8月第3~4半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける誘殺数は多かった(+)
- イ 芯折れ被害は東濃地域で認められたが(+)、飛騨地域では認められなかった(一)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(一)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 交信攪乱剤が設置されていないほ場では、発生に注意する。

4 果樹共通

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

- (1) 予報の根拠
- ア 予察灯における成虫誘殺数は、多かった(+)。
 - イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、岐阜・西濃、中濃及び東濃地域で多かった(+)。
 - ウ 被害果率は、岐阜・西濃、中濃及び飛騨地域で多かった(+)。
 - エ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 気温、湿度が高く風の弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。
 - ※ 病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類」(令和2年5月27日)、病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第3世代幼虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	平年並(8月第5半旬頃)	多
	中濃地域		やや少

- (1) 予報の根拠
- ア フェロモントラップにおけるチャハマキ、チャノコカクモンハマキの第1世代成虫の誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域でやや早く(+)、中濃地域のチャハマキで平年並(±)、チャノコカクモンハマキで早かった(+)。
 - イ フェロモントラップにおけるチャハマキ第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域でやや少なく(-)、中濃地域で少なかった(-)。
 - ウ フェロモントラップにおけるチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域で多く(+)、中濃地域で少なかった(-)。
 - エ 巻葉被害は、岐阜・西濃地域で多かった(+)。
 - オ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(-)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 幼虫が葉をつづりあわせると、葉液がかかりにくくなるため、ふ化期~若齢幼虫期に防除を実施する。
 - ※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

III 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	多

- (1) 予報の根拠
- ア 7月下旬調査時の発病果率と発病株率は、高かった(+)。
 - イ 向こう1ヶ月(7/25~8/24)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は多い(+)と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
 - ※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

- (1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップの誘殺数は、岐阜・西濃地域で平年並（±）、中濃地域でやや多く（+）、東濃地域で多かった（+）。
- イ さといもでの被害は少なかった（-）。
- ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は多い（-）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 今後の発生状況等について、「病害虫発生予報（9月情報）」等に注意する。
※ 病害虫図鑑「野菜類 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

タバコガ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、中濃、東濃地域で少なく（-）、飛騨地域で多かった（+）。タバコガの誘殺数は、少～やや少なかった（-）。
- イ タバコガ類の被害果率は低かった（-）。
- ウ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は多い（-）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。
※ 病害虫図鑑「ナス タバコガ類について」もあわせて参考にしてください。

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

- ア ナスほ場での発生は、岐阜・西濃地域で平年並（±）、中濃、東濃地域で少なかった（-）。
- イ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は多い（-）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
※ 病害虫図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

3 施設野菜

コナジラミ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	多

(1) 予報の根拠

- ア 岐阜・西濃地域のトマト施設周辺に設置した黄色粘着板への誘殺数は多かった（+）。
- イ 向こう1ヶ月（7/25～8/24）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は多い（-）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。
※ 病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」もあわせて参考にしてください。

[参考資料 1]

【東海地方 1 か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方气象台 令和 2 年 7 月 23 日発表－
 《予想される向こう 1 カ月の天候（7 月 25 日から 8 月 24 日）》

- ・期間のはじめは、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- ・向こう 1 か月の降水量は、多い確率 50% です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに 40% です。
- ・週別の気温は、1 週目は、低い確率 50% です。2 週目は、平年並の確率 50% です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。

[向こう 1 ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率 (%)]

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	40	30	30
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

[気温経過の各階級の確率 (%)]

	低い	平年並	高い
(1 週目) 7/25～7/31	50	40	10
(2 週目) 8/1～8/7	30	50	20
(3～4 週目) 8/8～21	20	40	40

[参考資料 2]

【7 月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：7 月			
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域	飛騨地域
水稻	葉いもち	多	多	多	多
	紋枯病	少	少	少	少
	ニカメイガ	少	少	少	少
	ヒメトビウンカ	少	やや少	-	-
	縞葉枯病	少	少	-	-
	セジロウンカ	多	多	平年並	平年並
	トビイロウンカ	少	少	多	少
	ツマグロヨコバイ	少	多	少	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多	多	多	多
大豆	ハスモンヨトウ	平年並	-	-	-
かき	カキノヘタムシガ	少	-	-	-
	ハマキムシ類	多	少	-	-
なし	ナシヒメシンクイ	-	やや少	-	-
	黒星病	多	多	-	-
もも	ナシヒメシンクイ	-	-	多	多
果樹共通	カメムシ類	多	多	多	多
茶	ハマキムシ類	多	少	-	-
	チャノホソガ	少	少	-	-
夏秋トマト	灰色かび病	-	多	多	多
野菜一般	ハスモンヨトウ	平年並	やや多	多	-
	タバコガ類	-	少	少	多
	アザミウマ類	平年並	少	少	少
施設野菜	コナジラミ類	多	-	-	-

※調査地点はほ場、予察灯、フェロモントラップ等

[参考資料 3]

《用語の基準と使用法》

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 半旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 | 時期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早い 平年値より3～5日早い。
やや遅い 平年値より3～5日遅い。
早い 平年値より6日以上早い。
遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 | 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
多い 平年値より、その値が41%以上多い。
少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 | 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

病虫害防除所ホームページに、病虫害発生予察調査データを公開しています。
http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_11901.html

主要な病虫害の防除上の注意事項等については、「病虫害図鑑」をご活用ください。
http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_63587.html

6月～8月は、令和2年度農薬危害防止運動の実施期間です。農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。